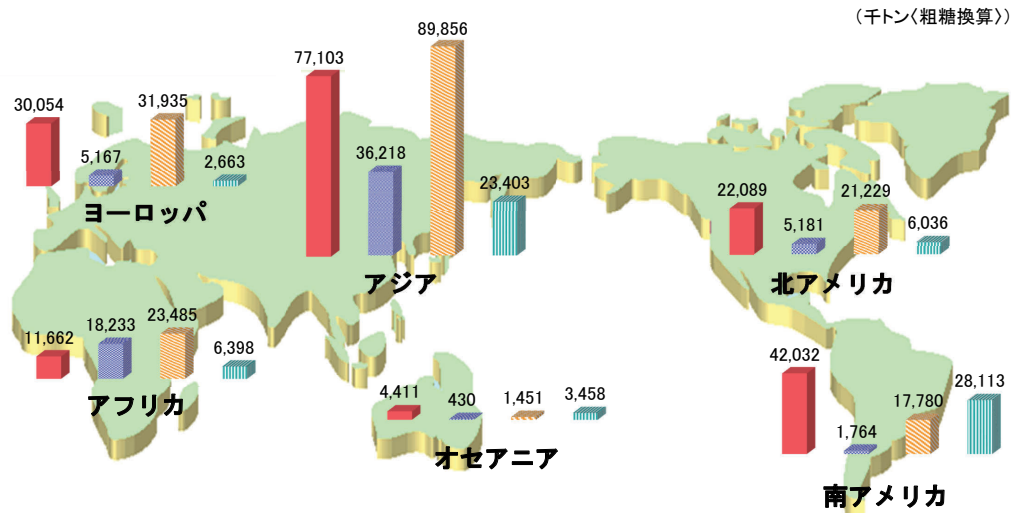


## 砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、峯岸 啓之

### 1. 世界の砂糖需給（2022年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2021/22年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1991/92	37,165	115,339	30,325	109,187	30,367	43,275	39.6
1996/97	48,284	126,217	34,491	118,126	36,946	53,920	45.6
2001/02	61,989	138,052	42,292	137,347	44,299	60,687	44.2
2006/07	56,404	164,685	46,737	155,847	49,829	62,150	39.9
2011/12	48,128	177,086	56,859	169,637	58,665	53,771	31.7
2016/17	69,822	180,387	70,759	181,369	71,288	68,310	37.7
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,844	67,989	80,969	44.8
2018/19	80,969	186,495	61,054	182,853	61,597	84,068	46.0
2019/20	84,068	181,298	69,391	182,138	71,841	80,778	44.3
2020/21	80,778	181,989	67,275	184,545	68,128	77,369	41.9
2021/22 (2022年3月予測)	76,731	186,462	65,669	185,429	68,825	74,608	40.2
2021/22 (2022年6月予測)	77,369	187,351	66,992	185,735	70,070	75,907	40.9

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2022」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量－輸入量－消費量－輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2022年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002737.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002737.html)

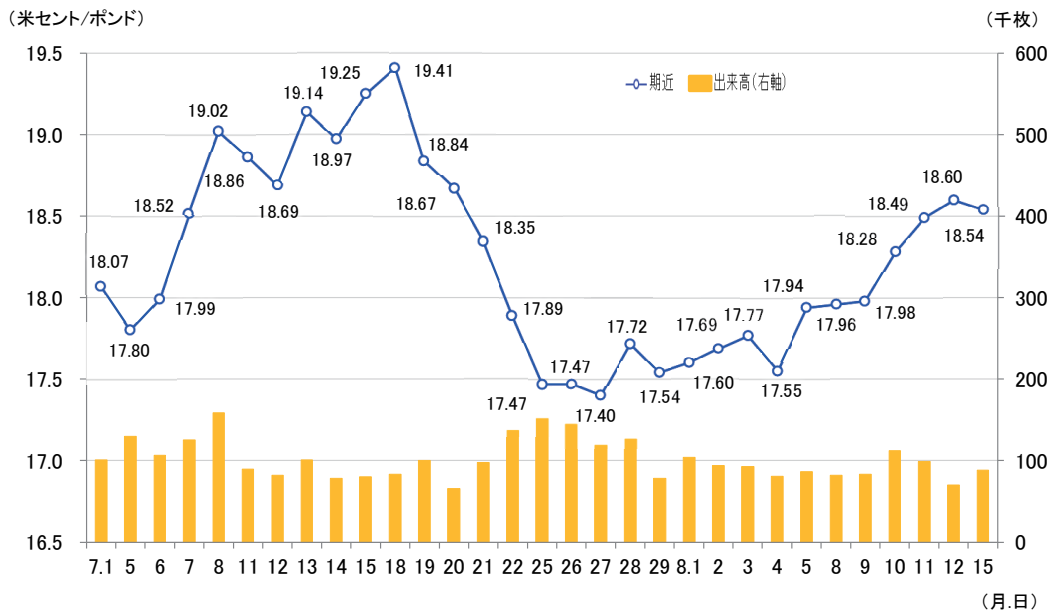
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_002738.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002738.html)

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（7/1～8/15）

～7月後半に17セント台まで急落するも、8月中旬には18セント台まで回復～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)  
注：期近10月限の値。

2022年7月のニューヨーク粗糖先物相場の推移を見ると（10月限）、1日はリアル安<sup>（注1）</sup>を背景に1ポンド当たり18.07セント<sup>（注2）</sup>を付けた。5日は、原油価格の急落<sup>（注3）</sup>と継続するリアル安により同17.80セントまで下落した。7日は、中国がインフラ支援などを目的とした2200億米ドル（29兆8342億円：1米ドル＝135.61円）<sup>（注4）</sup>の景気刺激策を検討していることを受けて商品市場が幅広く反発し、同18.52セントまで上昇した。8日は、原油価格とリアルが堅調に推移したことで同19.02セントまで上昇した。その後は、商品市場の軟調な動きに押されたことや原油価格の下落により値を下げたが、13日は、原油価格の回復などにより同19.14セントまで上昇した。14日は、リアル安の影響により同18.97セントを付けたが、15日は、ドル安に加えて原油価格の上昇により同19.25セン

トを付け、18日には同19.41セントまで続伸した。19日は、ブラジル国営石油公社がガソリンの卸売価格を引き下げるとの報道を受け、一転して急落し、同18.84セントとなった。20日は、インド政府が9月末までに砂糖の追加輸出を検討しているとの報道から、同18.67セントと下落傾向となり、25日には、さらに続落して18セント台を割り込み同17.47セントまで値を下げた。28日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）がブラジル中南部地域の7月前半の砂糖生産量を前年同期比17%減と発表したことなどから、10日ぶりに反転し、同17.72セントと値を戻した。29日は、ブラジル石油公社が2週間連続でガソリン卸売価格を引き下げたことから、同17.54セントと再び下落した。

8月1日は、前週末に発表された中国の製造業景気指数が下落したことから、砂糖需要の低迷が懸念

されたものの、レアル高の影響などから同17.60セントとやや値を上げた。その後回復基調にあったものの4日は、原油価格の下落などにより、同17.55セントまで値を下げた。5日は、欧州での熱波や干ばつその他、インド主産地で6月から7月にかけての降雨が例年より少なかったことなどの発表を受けて、同17.94セントまで反転した。10日も米国労働省が発表した7月の米消費者物価指数が市場の予想を下回ったことをきっかけに米ドルが売られたことで、商品相場全体を押し上げたことから同18.28セントと上昇し、18セント台まで回復した。その後は、原油価格の急騰などにより、12日は同18.60セントまで続伸したものの、15日は、原油価格が下落した影響などから、同18.54セントと値を下げた。

(注1) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

(注4) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年7月末TTS相場。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年8月時点予測)

#### ブラジル

##### 2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：848万ha (前年度比2.3%減)

生産量：5億9500万トン (同3.2%増)

###### 【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3825万トン (同1.7%増)

輸出量：2759万トン (同1.8%増)

#### 2022/23年度の砂糖生産量と輸出量は、わずかに増加する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2022年8月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、大規模な植え替えが計画されている中で、前年度の不作による苗不足から848万ヘクタール (前年度比2.3%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が平年より乾燥したものの、

その他の地域ではサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから5億9500万トン (同3.2%増) とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、7月にブラジルさとうきび産業協会 (UNICA) による減産見込みが発表されたものの、同月には相次ぐガソリンの卸売価格引き下げを受けて、相対的にバイオエタノール需要が減少し、砂糖仕向けの増加が見込まれることから3825万トン (同1.7%増) とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は砂糖の増産を背景に2759万トン (同1.8%増) とわずかに増加すると見込まれる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

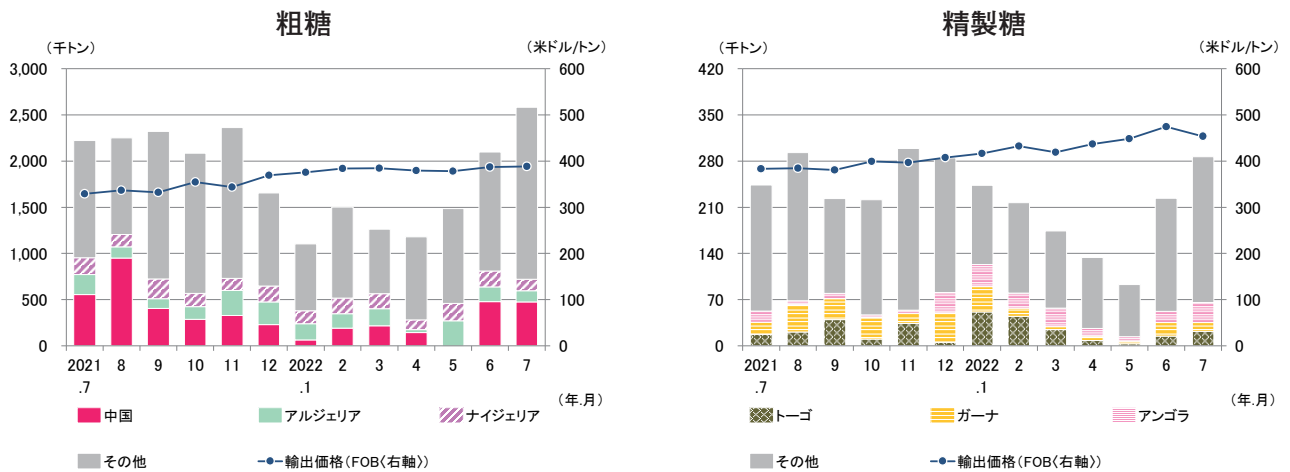
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (7月予測)	2022/23 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,683	8,483	8,483	▲2.3%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	605,000	595,000	3.2%	
砂糖	生産量	31,804	44,597	37,610	37,710	38,250	1.7%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,666	10,666	0.0%
	輸出量	20,321	34,042	27,086	27,049	27,586	1.8%
	期末在庫量	3,778	3,345	3,212	3,216	3,218	0.2%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.5	8.5	8.4	0.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

## インド

### 2021/22年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：517万ha(前年度比5.3%増)

生産量：4億4481万トン(同5.5%増)

#### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：3860万トン(同14.7%増)

輸出量：1203万トン(同40.1%増)

### 2021/22年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に増加する見込み

2021/22年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、517万ヘクタール(前年度比5.3%増)とやや増加すると見込まれる(表3)。主産地では平年以上の降雨により生育状況は順調であることから、サトウキビ生産量は4億4481万トン(同

5.5%増)とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、北部で発生した収穫期前の大雨の影響が想定より軽微であったことや、主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州のサトウキビ生産量が過去最多を記録するとみられることから、3860万トン(同14.7%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、インド政府が5月に実施した輸出制限に

対し、8月に輸出枠を拡大<sup>(注)</sup>したことから、1203万トン（同40.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

(注) 当初の1000万トンの制限を1120万トンまで上限を拡大した。詳細は、2022年8月19日付け海外情報「砂糖輸出制限を緩和し、120万トンの追加輸出を許可（インド）」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003336.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003336.html))を参照されたい。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

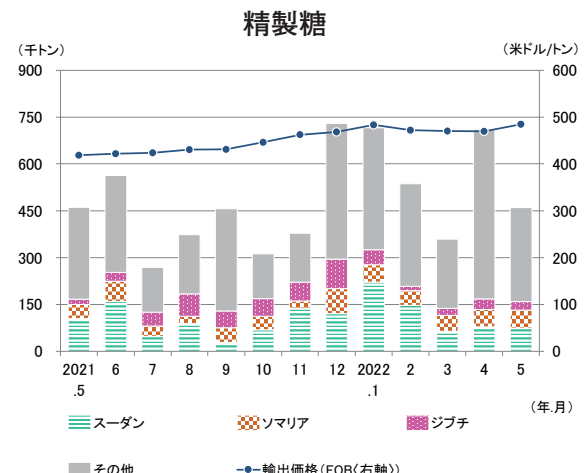
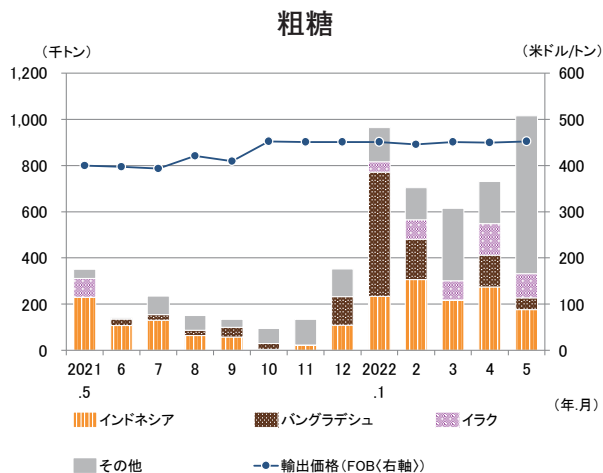
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,960	4,642	4,906	5,165	5,167	5.3%	
サトウキビ生産量	404,528	369,805	421,687	443,110	444,813	5.5%	
砂糖	生産量	35,798	29,544	33,642	38,666	38,602	14.7%
	輸入量	664	1,686	1,022	144	144	▲85.9%
	消費量	27,648	27,324	28,679	29,376	29,376	2.4%
	輸出量	5,504	8,288	8,582	11,606	12,027	40.1%
	期末在庫量	14,833	10,452	7,853	5,681	5,195	▲33.8%
	期末在庫率	44.7	29.3	21.1	13.9	12.5	8.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

## 中国

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：112万ha（前年度比3.6%減）

生産量：7225万トン（同0.3%減）

#### 【てん菜】

収穫面積：14万ha（同37.8%減）

生産量：707万トン（同42.7%減）

#### 【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】

生産量：1036万トン（同10.2%減）

輸入量：605万トン（同24.2%減）

### 2021/22年度の砂糖生産量はかなりの程度、 輸入量は大幅に減少する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、112万ヘクタール（前年度比3.6%減）とやや減少すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、7225万トン（同0.3%減）と前年度並みに留まると見込まれる。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシへの転作の増加により14万ヘクタール（同37.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。てん菜生産量も、収穫面積の減少に加え冬季の寒波などを背景に707万トン（同42.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、原料の減産に加え、降雨によるサトウキビ収穫の遅滞や前年のてん菜収穫期間中に発生した大規模停電による製糖工場の操業停止などを受けて1036万トン（同10.2%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増されたことから605万トン（同24.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。

### ツマジロクサヨトウによる影響を懸念

中国農業農村部は7月27日、ツマジロクサヨトウの防除に関わる会議を開催し、中国国内で6月末からツマジロクサヨトウの北上が加速したため、雲南、湖南、安徽、四川、貴州、河南および陝西の七省で、前年よりも深刻な被害が発生していると報告した。ツマジロクサヨトウは2019年1月に初めて中国に上陸し、東北部の遼寧省や南西部の四川省でサトウキビをはじめ、トウモロコシ、ソルガム、小麦などでの被害が報告されている。

また同部は、南方さび病、すす紋病、茎腐病など他の病虫害の増加も作物生産に対する脅威となっているが、現状では発生予測と予防措置が困難であるとしている。今秋の豊作を確保するため、病虫害発生後の事後対応よりも、でき得る範囲での予防措置を講ずることが重要であるとし、病虫害の発生予測と早期防除の強化を図るとともに、病虫害の発生状況の把握や予防・防除の励行を促した。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

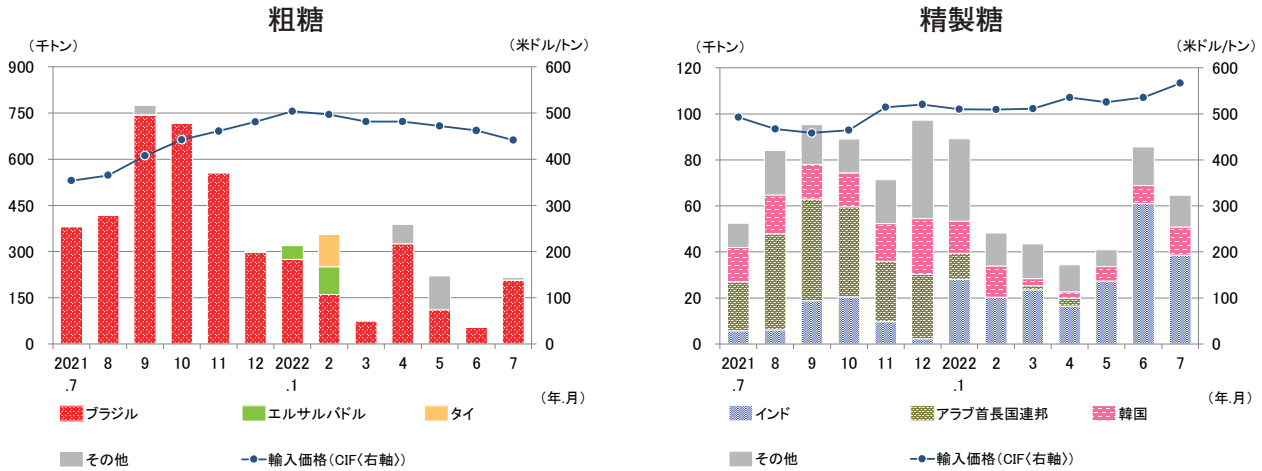
年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,219	1,176	1,157	1,115	1,115	▲ 3.6%
サトウキビ生産量	77,618	73,715	72,441	72,307	72,253	▲ 0.3%
てん菜収穫面積	243	213	231	144	144	▲ 37.8%
てん菜生産量	11,670	10,900	12,330	7,070	7,070	▲ 42.7%
砂糖	生産量	11,640	11,258	11,530	10,366	▲ 10.2%
	輸入量	5,038	6,582	7,978	6,347	▲ 24.2%
	消費量	16,522	16,308	16,740	16,524	▲ 1.3%
	輸出量	210	192	132	168	25.6%
	期末在庫量	11,218	12,559	15,196	15,217	▲ 1.9%
	期末在庫率	67.0	76.1	90.1	91.2	89.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2022」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

## E U

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：145万ha（前年度比1.4%減）

生産量：1億1057万トン（同12.2%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1725万トン（同14.1%増）

輸出量：131万トン（同3.8%増）

### 2021/22年度の輸出量は、増産を背景にやや増加する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、145万ヘクタール（前年度比1.4%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生

産量は、干ばつを記録した前年と比べて生育期の降雨が多く、今期は大規模な病虫害も発生していないため、1億1057万トン（同12.2%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の増産見込みを受けて1725万トン（同14.1%

増)とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、消費量の増加も見込まれる中で、それを上回る砂糖の増産などを背景に131万トン(同3.8%増)とやや増加すると見込まれる。

### 熱波と干ばつによる砂糖減産の懸念

7月に欧州全域で発生した記録的な熱波と干ばつの影響により、今年度のでん菜収穫量が大幅に減少する可能性がある。英国のコンサルタント会社が7月21日に発表したレポートによると、欧州のほぼ全域で少雨により土壌の水分が不足しており、多くの地域で農作物の生育が平年を下回り、今後、十分

な降雨がなければ熱波と干ばつによる生育不良の拡大が懸念されている。

また、現状、特にドイツで土壌の水分が不足し、この状況はてん菜収穫量が11%減少した2018年夏のデータと類似しており、他国でも同規模のてん菜収穫量の低下が発生した場合、今年度の欧州の砂糖生産量は平年から200万トン近い減産が見込まれるとしている。欧州では今期、作付面積の縮小によるてん菜生産量の減少が見込まれており、熱波と干ばつによる影響がさらに追い打ちをかけると懸念されている。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,601	1,517	1,474	1,453	1,453	▲ 1.4%	
てん菜生産量	104,309	110,102	98,517	110,310	110,569	12.2%	
砂糖	生産量	17,117	16,971	15,102	17,195	17,245	14.1%
	輸入量	2,349	2,230	1,888	1,977	1,981	4.9%
	消費量	17,647	17,016	16,744	17,728	17,567	4.9%
	輸出量	2,391	1,436	1,262	1,301	1,310	3.8%
	期末在庫量	1,598	2,347	1,332	1,474	1,681	26.1%
	期末在庫率	8.0	12.7	7.4	7.7	8.9	1.5ポイント増

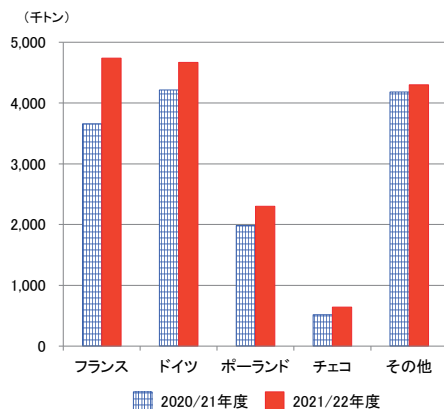
資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2022]

注1: 2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

### (参考) EUの砂糖生産見通しおよび国別の生産割合(2022年4月時点)

EUの砂糖生産見通し

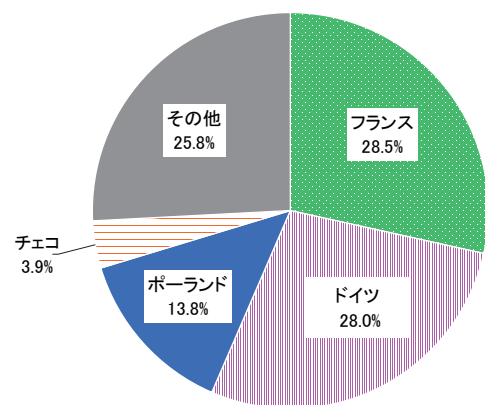


資料: 欧州委員会

注1: 精製糖換算。

注2: 2021/22年度は予測値。

国別の生産割合(2021/22年度)



資料: 欧州委員会



## 4. 日本の主要輸入先の動向（2022年8月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、これら2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

### 豪州

#### 2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度同）

生産量：3173万トン（前年度比5.4%増）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：418万トン（同1.4%増）

輸出量：317万トン（同13.8%減）

### 2022/23年度の砂糖輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度同）と前年度並みと見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、夏の終わりから秋にかけて主産地であるクイーンズランド州での降雨が予想されることから、

3173万トン（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前月予測から上方修正され、418万トン（同1.4%増）とわずかな増加が見込まれる。輸出量は、317万トン（同13.8%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (7月予測)	2022/23 (8月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	342	342	▲ 0.0%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	31,156	31,733	5.4%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,104	4,180	1.4%
	輸入量	17	10	15	17	17	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,039	1,032	1,032	▲ 0.6%
	輸出量	3,449	3,357	3,670	3,085	3,165	▲ 13.8%
	期末在庫量	747	744	174	178	174	0.1%
	期末在庫率	16.5	16.9	3.7	4.3	4.1	0.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## タイ

### 2021/22年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：149万ha（前年度比0.2%増）

生産量：9207万トン（同38.1%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1070万トン（同34.3%増）

輸出量：773万トン（同95.6%増）

### 2021/22年度の輸出量は、前年度から大幅に増加し、回復する見込み

2021/22年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、149万ヘクタール（前年度比0.2%増）と前年並みで推移すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、前年度が干ばつの影響を大きく受けた中で、主産地の降雨量が平年を上回り、単収が大きく改善することで9207万トン（同38.1%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト<sup>(注1)</sup>の普及を背景とした梢頭部<sup>しょうとうぶ</sup>や葉などの混入が製糖効率を低下させるものの、1070万トン（同34.3%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、サトウキビが記録的不作となった前年度からの反動を受けて773万トン（同95.6%増）と前年比で倍増が見込まれる。

(注1) サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

### 57製糖工場が副産物に「バガス」を追加する法改正案に反対

タイ製糖協会（TSMC）会長は、上院議会で審議中の「サトウキビおよび砂糖法<sup>(注2)</sup>」の改正案に対し、全国の57製糖工場が反対する共同声明を決議し、書面を上院議長に提出したことを明らかにした。7月21日の現地報道によると、反対の理由として、業界の主要利害関係者である製糖工場が同法改正案の検討委員会への参加を許可されないのは、立法プロセスにおいて必要な検討者が欠けており、法の原則に反していると主張している。

また、同法制定当初からの合意に基づき、バガスの所有権は製糖工場にあり、多くの燃料が必要な製糖工場では、これまでボイラー燃料としてバガスを利用してきたが、改正案により従来産業廃棄物に分類されていたバガスが副産物と規定されると、バガス利用に対して新たな経費が発生することを問題視している。

なお、上院で承認され法案が成立した場合、製糖工場は同法で規定する委員会には参加しないことも合わせて表明し、法案成立をけん制した。

(注2) 「サトウキビおよび砂糖法」は1984年に制定され、サトウキビや砂糖関連産業から得られる収益の関係者間での分配方式やサトウキビの買入価格、国内砂糖販売価格などについて定める。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (7月予測)	2021/22 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,913	1,714	1,485	1,489	1,489	0.2%
サトウキビ生産量	130,970	74,893	66,659	92,071	92,071	38.1%
砂糖	生産量	15,457	8,801	7,971	10,703	34.3%
	輸入量	4	66	113	140	23.9%
	消費量	3,737	3,773	3,592	3,521	▲ 2.0%
	輸出量	10,113	8,461	3,950	7,726	95.6%
	期末在庫量	7,899	4,532	5,074	4,671	▲ 7.9%
	期末在庫率	57.0	37.0	67.3	41.5	25.7ポイント減

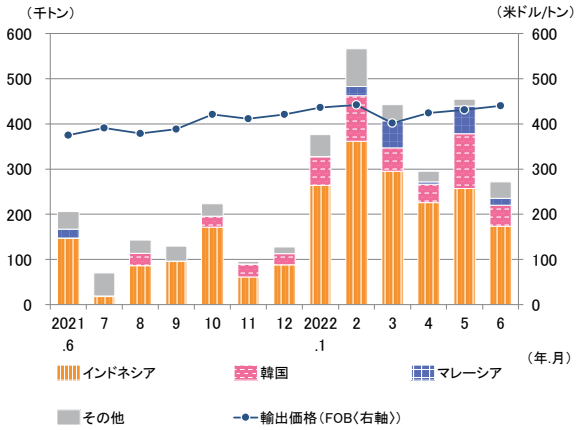
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2021」

注1：2019/20年度および2020/21年度の数値は推定値、2021/22年度の数値は予測値。

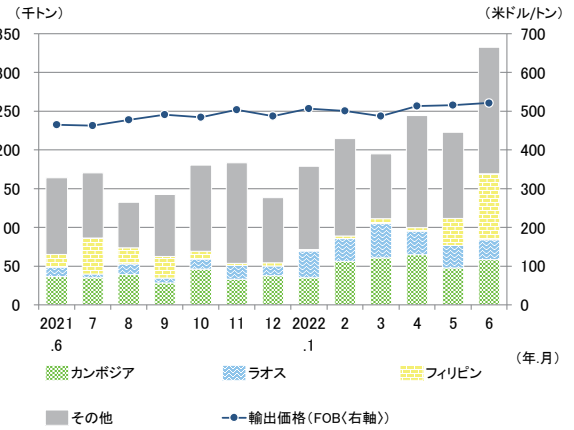
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。